

Mt.FUJI100 2026 全体説明会議事録

日時：2025年9月30日（火）13:30～15:00

会場：富士吉田市 富士北麓公園体育館会議室

出席者：

No	氏名	所属・部署
1	小西 美緒	環境省富士五湖管理官事務所
2	渡辺 公秀	富士五湖消防本部 救急課
3	宮下 清光	富士吉田市陸上競技協会
5	望月 近美	日本野鳥の会 南富士支部
6	市川 洋介	富士市 交流観光課
7	藍田 祐己	富士市 交流観光課
8	奥脇 卓哉	富士吉田市 教育委員会生涯学習課
9	渡邊 翔	忍野村 教育委員会
10	千葉 達雄	Mt.FUJI100実行委員会 共同代表 株式会社ソト工代表取締役 一般財団法人日本トレイルランニング協会理事
11	岡嶋 智己	Mt.FUJI100実行委員会 競技ディレクター 株式会社アールビーズ
12	磯崎 昭浩	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
13	関谷 正太郎	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
14	神谷 知里	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
15	三浦 務	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
16	鈴木 磨美	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
17	工藤 直美	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
リモート出席		
18	細萱 宏樹	静岡県 暮らし・環境部環境局自然保護課
19	織田 遼太	静岡県 暮らし・環境部環境局自然保護課
20	田中 千夏	山梨県 森林環境部 自然共生推進課
21	安田 泰輔	山梨県 富士山科学研究所
22	福原 みさよ	静岡県富士山エコレンジャー連絡会
23	臼田 健悟	身延町 企画政策課
24	佐藤 友香	山中湖村 観光課

議題

(1) 2026 大会運営計画説明

- ・大会概要について
- ・コースについて
- ・安全管理体制及びコースの迂回について
- ・自然環境に配慮した持続可能な大会運営のために

(2) 質疑応答

(3) その他

(1) 2026 大会運営計画説明

大会概要について

(事前配布資料「運営計画書」に沿って説明)

<共同代表 千葉>

開催日：2026 年 4 月 24 日 (金) ~26 日 (土)

競技種目：FUJI100mi)

参加人数を 2,000 名に変更し、渋滞問題の改善を図る

距離約 167.0km 累積標高 6,254m

参加費を 50,000 円に変更。

ウェスタンステイツ 2027 の予選レースに認定

KAI70k 1,000 名

距離 70.2km 累積標高 3,052m

ASUMI40k 参加人数を 1,000 名に変更。

距離 38.5km 累積標高 1,481m

制限時間を 9 時間 30 分に延長

必携品について安全面を考慮した上で見直しをした

- ・紙の地図ではなく、GPX データのダウンロードを必須にし、登録したメールアドレスを受信できるスマートフォンを携帯すること
- ・充電を十分にした 80 ルーメン以上のライトを 1 つ持つことに変更
- ・昼間のレースのためレインジャケットのみを必携
- ・ホイッスル、携帯トイレ、防寒具に関しても見直しをした

・ワールドトレイルメジャーの種目である FUJI100mi と ASUMI40k は賞金化。1 ~5 位までに賞金を授与。

エントリー期間：優先エントリー2025 年 10 月 20 日~11 月 16 日

対象：Mt.FUJI100 2025 FUJI100mi 総合 100 位以内

一般エントリー2025年11月01日～11月16日

サポーターエントリー2026年01月06日～1月13日

対象：FUJI100miのみ500名

ボランティア募集 2025年12月17日～12月25日

スケジュール

4月23日（木）

富士市宿泊ツアーの前日受付

4月24日（金）

08時00分～18時00分 受付・手荷物・ドロップバック預け 富士北麓公園

14時30分～16時30分 FUJI100mi手荷物・ドロップバック預け 富士山こどもの国

*富士山こどもの国での手荷物預けは有料・事前申込制

17時00分～17時45分 FUJI100mi ウェーブスタート 富士山こどもの国

4月25日（土）

08時00分～13時30分 受付・手荷物預け

12時00分 ASUMI40k スタート 富士北麓公園

14時00分 KAI70k スタート 富士北麓公園

18時00分～19時00分 ASUMI40k 表彰式 富士北麓公園

21時30分 ASUMI40k 最終制限時刻 富士北麓公園

4月26日（日）

12時00分～13時00分 KAI70k 表彰式 富士北麓公園

14時00分～15時00分 FUJI100mi 表彰式 富士北麓公園

11時00分 KAI70k 最終制限時刻 富士北麓公園

12時00分～13時00分 FUJI100mi 表彰式 富士北麓公園

14時30分 FUJI100mi 最終制限時刻 富士北麓公園

15時30分 手荷物・ドロップバック預かり終了

イベント・その他

EXPO 2026年4月24日～26日 富士北麓公園内で3日間開催

SAKUYA12k 12kmと6kmを想定。イベントとして開催し、次回はMt.FUJI100の新カテゴリーとしていきたいと考えている

Mt.FUJI100 Mini 3歳以上のお子様と大人と一緒に参加できる3kmのレース

Virtual FUJI100mi/KAI70k/ASUMI40k

アクセスバスツアー

昨年に則り作成。今後ブラッシュアップ予定。

コースについて

(コースマップを参照に説明)

- コースマップ 2 F1 富士宮エイドは、大原学園ビガークラブ敷地内が通行不可になるためコース変更し、それに伴いエイド箇所を近隣のオートキャンプ場へ変更。これは渋滞箇所を回避でき、渋滞解消につながると考えている。
- コースマップ 4 竜ヶ岳は脆弱な地形であり、また天候が良い場合は景観を求めて朝早くからハイカーが多数いることがある。今大会は竜ヶ岳を回避し、端足峠から本栖湖側に下り、佛峠、中ノ倉、と以前使っていたパノラマ台方面を通り精進湖に回る過去に使用したコースに戻す。モニタリング調査も実施する。
- コースマップ 5 青木ヶ原樹海は国道を通過することで変更なし
- コースマップ 7 F4 富士北麓公園から F4 富士急ハイランドに変更。選手の負担が少ないコースに変更し、先のコース変更により延びた距離をここで調整。ドロップバッグ受け取り、サポートは F5 忍野に変更し、F4 は通常のエイドとし、応援者が来られるエイドとするために調整中。

安全管理体制及びコースの迂回について

コース調査を行い、整備もしていく。

一週間前、3 日前、1 日前に共同代表で会議を行い、コースの決定や開催に関する決定を行う。

前年どおり各スタート、フィニッシュ、エイドには医師、看護師を配置。消防本部とも情報共有をしていきたい。

自然環境に配慮した持続可能な大会運営のために

環境モニタリング調査

コースの変更に伴い、本栖湖周辺のトレイルのモニタリング箇所を追加。過去に佛峠～中ノ倉山のコースを使用していた時と同じ箇所でモニタリングを行う予定。

野鳥調査は 2026 年大会においては実施しない。

(2) 質疑応答

<日本野鳥の会南富士支部 望月様>

「7 月 6 日付の〇〇に、趣味が野鳥の写真撮影という野鳥の会のメンバーではない一般の方が投稿をし、天子山系に通い詰めてクマタカの繁栄の場面を目撃した。2 月以降巣を作って卵を温める行為を開始して、順調に行くとクマタカの巣立ちには 50 日くらいかかるというデータがありますので、4 月末には巣立ちがあるのではないかと予想して観察を続けたところ、5 月 6 日にオスメスどちらも巣に戻らず飛び去り、ヒナの巣立ちを確認でき

なかったと。昨年もそういうことがあったと書いてある。この方は野鳥の会の方でもなく、記事の中にこのイベントのことは一切出てきていない。ニュートラルな立場で事実を観察して記事にした。野鳥の会のデータや調査結果ではなく他人の禪みたいで恐縮だが、一般の方もそういう事実を目にして、注視するところでもある。あくまでも森林の生態系の頂点にいる絶滅危惧種で、その周辺の環境などに非常に影響を受けているということだ。これからも続けて行かれる上で見落とさないでいただきたい。」

<共同代表 千葉>

「クマタカの生息地も把握し過去に我々も調査をしている。コース上からは見えない場所に生息しているので大丈夫であろうと結論付けた。もちろん生息しているということを前提で大会を行なっていく。

以前5月末に開催していたところ、この時期は野鳥に問題があるということで4月末に行なっている。クマタカだけを考えると5月開催の方がいいという議論はこういう場でさせていただいたこともある。クマタカだけが野鳥ではないのでこの時期にやらせていただいている。」

<山梨県富士山科学研究所 安田様>

「環境影響モニタリングの内容がよくわからないので、こちらは精査しないといけないのではないかと思う。昔のモニタリングなり調査内容を合わせて見なくてはいけないと思いまうが、その情報はどこを見ればいいのか。」

<共同代表 千葉>

「過去のモニタリング調査に関して、事前事後で説明会をさせていただいており資料の方をお送りしているので、過去のものがすべてである。データ等お送りさせていただくのでモニタリング調査の手法は確認をいただければと思う。

モニタリング調査の手法自体に関しまして、環境省が平成27年に作りましたモニタリング指針によって取った手法を取っている。」

<山梨県富士山科学研究所 安田様>

「地域によって生態系がだいぶ違うので、それに合わせたモニタリングをしていただければありがたいと。ただモニタリングは数字だけ見てもあまりよろしくなく、データ解析した上で影響があるか、事前事後の変化があるのでどういうふうな解釈が行われて、それが大会前にどういうふうに反映されたかというところが伝えていただくと私にとってはありがたい。」

<共同代表 千葉>

「モニタリングの指針は、私も2年ほど関わって環境省に作っていただいたもの。環境省の資料を含めて、モニタリング調査も弊社で行っているので、ご説明と逆にアドバイスいただければと。ぜひお時間にいただければお伺いして意見交換をさせていただければありがたいと思う。」

<山梨県富士山科学研究所 安田様>

「こういう場に参加できない地元の方々が不安に思っていることが、心配なことではある。データで公開し、どういう判断基準で実施するかしないか、コース設定をしたのかという考えを一緒に示されるといいのかと。そこを教えていただいて情報交換をさせていただけたらありがたい。」

<環境省富士五湖管理事務所 小西様>

「今年度の大会では石割山のあたりで伏線化したところがあったというのは私も整備の時期に見たところだが、検討していくということも大事だが、今のモニタリング箇所以外の場所にも影響を受けやすいところがある。樹海は特別保護地でエリアとしては非常に重要だと思うが、道を外さない限り溶岩なのでそれほど影響はないのでは。これに比べて影響が少しでも出てしまうところがあるかと思う。その部分ではモニタリングに影響がなかったかは分からないが、富士山科学研究所の安田先生からも言うておられたので、そのあたりを可能であれば検討するなり現地を一緒に見ていただけるとありがたい。」

<共同代表 千葉>

「富士山科学研究所様にもお時間を割いていただいて、もう一度何が問題なのかと懸念点を洗い出して、検討させていただくということによろしいでしょうか。」

(3) その他

NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部の活動報告

(NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部理事長 三浦様より報告)

別紙参照

質疑応答

<静岡県富士山エコレンジャー連絡会 福原みさよ様>

「須山口登山歩道の補修のことについてお伺いしたい。

エコレンジャー連絡会では毎年須山口登山歩道を環境パトロールということで歩いている。7月6日に補修された場所は弁当場から沢沿いか。」

<Mt.FUJI100 実行委員会事務局 神谷>

「施工場所は、弁当場から500mくらい移動した、水がたくさん流れ土砂が沢の方に落ちてしまう深い場所に水の道を拡散するために土嚢袋を土留めにして、小さなダムを作らせていただいた。6月に行なった場所が翌日の大雨で、小さなダムが一部決壊し、7月初旬にやり直して今見守っている状態である。」

<静岡県富士山エコレンジャー連絡会 福原みさよ様>

「前にも近自然工法で補修をしてくださり、丸太と土嚢で山の斜面から水が沢の方へ行くようにしているのだが、やはり大雨が降るたびに少しずつ傷み、4月に歩いた時にも補修が必要だと思ったが、6月に補修してくださったというお話を聞いて、また観に行かせ

ていただきたいと思う。これからもその場所に適切な補修と環境の保全について適した流用の仕方を考えていきたい。」

<環境省富士五湖管理事務所 小西様>

「前回の報告の中でもあったが、一般の応援の方のルールとマナーに関して伺いたい。大会自体が実施されることなど地域の方々のご存知でない方もいると思うのだが、周知の方法を今年から変更がされる予定があるのか。

海外からの参加者もたくさんいて、国によってルールや文化の違いがあり、突発的に周知をしても届かないことや理解が違うことがあると思うが、海外の選手に向けて周知について工夫や検討をされたりしているか。」

<共同代表 千葉>

「応援の周知方法は、チラシを配らせていただいたり、折込広告を入れさせていただいているがそれ以上のことはなかなか難しい。それよりも毎年同じ時期に開催をし、我々が地道なことを続けながら文化としてのトレイルランニングを知っていただく、実際にそれを行われている方たちを増やしていく、やっている方を応援していただくということを地道に続けていくことだと思っている。

海外の方に関して、まず我々が言うのは、競技規則として必携品やルールで完全に縛られるものがあるので、富士山のニュースで見られるような大きな問題はなかなか起きないと考えます。参加者の多くは大知識や造詣が深く、理解の高い方がいらっしゃっているということも大きいと思う。ただそれでも、昨年上位に入られた方がほぼ装備を持っていない、理解をされていない方が一定数いた。ただ守れるようにするというわけではなく、今日ご説明したASUMI40kのようにはこれだけというものをしっかり決めて実施していく。

また、なかなか難しいところであるので応援ポイントをはじめから言っていない。ヨーロッパでは普通は応援に来てくださいと言っていて、トレイル上に人がいる。応援バスを出したこともあるが、日本では文化的に夜間も含めてかなり難しいということもあり応援ポイントを設定していない。エイドもサポートエリア以外に入れないのは選手の皆さんには申し訳ないがこのような形で対応をしている。」

議事録作成：Mt.FUJI100 実行委員会
事務局 鈴木磨美